

巻頭言

比較日本学教育研究センター長

古 瀬 奈津子

1999年度、本学の大学院博士後期課程に国際日本学専攻が設置され、国際日本学シンポジウムが毎年7月に開催されるようになり、その活動に基づき2004年度には比較日本学研究センターが設置されました（2008年度から比較日本学教育研究センター）。その後、国際日本学が中心となって2005年度・2006年度には魅力ある大学院教育イニシアティブに「対話と深化の次世代女性リーダーの育成」、2007年度～2009年には大学院教育改革支援プログラムに「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」が採択され、本センターもその一翼を担って研究教育活動を進めてまいりました。

2010年度で、外部資金は終了しましたが、国際日本学の研究教育を継続していく必要があることから、従来行ってきた事業のうち、国際日本学シンポジウムと国際日本学コンソーシアムを引き続き開催することとなりました。また、センター員の先生方のご尽力により、公開講演会も5回実施することができました。新しい試みとしては、外部組織・プロジェクトとの共催などもあげられます。

本学の国際日本学は国際的な視野のなかで日本研究を進め、総合学としての日本学を世界に発信することを目指してきました。そのため、大学院教育イニシアティブや大学院GPを通じて、世界各地の日本学研究を行う大学など研究機関の研究者や大学院生と交流し、海外からの視点・発想を取り入れ、日本文化・社会の理解を相対化しようと努めてきました。今後もこのような姿勢を貫くために、この間に築いてきた日本学研究の国際的なネットワークが途切れることなく続くことが望まれます。

また、この5年間に蓄積してきた私たちの日本学の研究成果を新しい形に構築して世界に発信していくことも必要だと思います。私たちの行ってきた日本学を今年度の国際日本学コンソーシアムの「『日本』とはなにか」というテーマの下に深め、世界に通用する日本学へと発展させていければ考えております。

5年間の外部資金を獲得していた時期が終わり、謂わば平時が戻ってきたわけですから、そのような状況に合った形でセンターの研究活動が進められていくことを願っております。みなさまのご支援をよろしくお願いいたします。

2011年3月